



[特集]

日本社会・地域経済を支える

建設産業の現状と 未来への展望

04 人材育成・就労支援

若年者向けの就業促進・ 新入社員への育成事業を通して、 建設業への理解と定着を図る

愛知県建設業協会／富士教育訓練センター

就業者数の減少は、業界が抱えている大きな問題です。若年者の就業促進や育成、就労者のキャリア教育にいち早く取り組んでいる2つの団体に、活動について伺いました。

愛知県建設業協会

県内の工業高校へ出前授業・ 保護者向けの現場見学会も実施

県内の工業高校生・専門学校生に対する入職促進事業や、業界に入ったばかりの若手社員向けの定着促進事業に積極的に取り組んでいます。

入職促進事業では、現場見学会や職業体験の実施など幅広く啓もう活動を実施。平成21年からは、県内にある工業高校4校の1年生を対象に、専門家を招いて出前授業も行っています。生徒たちから「建設業にもいろいろな職種があることがよく分かった」「興味が湧いた」と

いう感想もあり、進路の選択肢の一つとなつてきているようです。

最近では、保護者向けの現場見学会や工業高校の先生に建設技術の講習会も行っています。親御さんや先生方に建設業への知識と理解を深めていただき、建設業を希望する学生たちの後押しになつてくれればと考えています。



工業高校の先生方向けの講習会で鉄骨の組み立てを行う様子。

このほか、入社2～5年目の社員を対象とした若手社員能力向上研修会も毎

年開催。当協会会員のアンケートによると、入社1～5年での離職率がとても高く、理由の一つに人間関係の悩みがあることが分かりました。現場では、発注者との交渉、住民の方々とのお付き合いなど、交渉力やコミュニケーション力を必要とする場面がたくさんあります。研修会では、円滑に業務を遂行できるように、マネジメント能力の向上に重点を置いています。

今夏には新たな事業として、建設業簿記を理解し、決算などに関する初歩的な実務を行うことができるようになる「建設業経理事務士検定」の特別研修を高校生向けに開催。5校250人程度を対象に行う予定です。



保護者に対する説明会。

「建設業経理事務士検定」の特別研修を高校生向けに開催。5校250人程度を対象に行う予定です。

富士教育訓練センター

「ものづくりは人づくり」という信念のもと道徳教育も取り入れる

優れたものづくりはまず「人づくり」からという強い信念のもとに開校した、建設技術者・技能者の教育訓練施設です。初心者向けから中級・上級者向けに、技術コース、技能コース、多能工コースなど15コースあり、それぞれの現場で必要な知識や資格を、寮生活を送りながら修得していきます。現在では、全国各地から、年間約1万人が受講しています。受講者のほとんどが入社間もない学生。修了時には、「建設業界で働いていく決意が固まった」「やっつけていく自信が付いた」という声も多く聞かれるようになります。

また、技能や技術の修得だけでなく、人間的にも成長してほしいと考え、道徳の授業も行っています。寮での共同生活は、人とコミュニケーションを図る上で大いに役立っていると思います。

これからは、若年者向けの教育にも力を入れていきます。まず手始めに埼玉県の工業高校3,000名を対象に、職に対する講座を行う予定です。



寝食を共にしてコミュニケーションを図る(食堂の様子)。